

[105/106] 史淵表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2235983>

出版情報 : 史淵. 105/106, 1971-08-20. 九州大学文学部
バージョン :
権利関係 :



名譽教授長壽吉先生御逝去

文学部名譽教授長壽吉先生には、昭和四十六年三月二十一日、東京都武蔵野市吉祥寺東町二の一三の六において逝去された。御享年九十。先生は西洋史学講座初代の教授として、大正十四年二月の御就任より昭和十五年九月の定年御退官まで約十六年間に、講座の創設と充実に尽力され、また同志と共に九州史学会を創立育成された。御退官後は東京に居を移され、上智大学その他の大学において後進の指導にあられたが、文学部の記念論集および史淵の記念号などには欠かさず論文を寄せられ、学問への情熱のますます旺盛なることを示された。先生の御学識は古今東西にわたって視野きわめて広く、ブランデンブルク選挙侯の政治訓諭に関する研究によって昭和五年に文学博士の学位を授与されたほか、十九世紀の七月革命、二月革命、パリ・コミューン前後の仏・独・英の内政史に独自の光をあて、そのほかアイルランド独立運動、ユダヤ人問題、婦人運動などにも深い研究をおこない、多くの論文・著書をあらわされた。これらの御業績はいずれも学界の高く評価するところである。また御熱心な後進育成の成果は門下生による還暦記念論文その他の記念事業に実を結んでいる。学界の耆宿たる先生を失なつたことはただに文学部のみならず、学界の大きな損失で痛惜に堪えない。ここに在りし日の先生の御照相を掲げ、以てその偉大なる御学徳を偲ぶよすがとする。

(九州大学文学部史学科)